



「一人の発達が遅れている」と言われたとき

双子、三つ子のうちの一人の子の発達が「遅れているのでは？」と感じ、専門家や周囲の人からも遅れていることについて指摘があったとき、親御さんの心配は大変なものでしょう。これから先、どの子も同じように育てていきたいのに、どう対応していけばいいのか途方に暮れ、子育てに自信をなくす方もいます。発達レベルは1歳代です」とか「1歳ぐらい遅れています」等の説明は専門家の世界のとらえ方であって、双子の子育て中の母親には無理な説明です。何の役にも立ちません。

一方の子は2歳を過ぎて言葉が順調に増えてしゃべるようになったのに、もう一方の子はいつまでも「アー、ウー」程度のことばしか喋らず、呼びかけても振り向かないなど、耳が聞こえないのだろうかと思える素振りがあったり、欲しいものがある時は母親の手を引っ張っていき視線を合わせずに行動する等を、不安に感じて訴えられる親御さんに時々出会います。母親の気持ちとしては「どうしてあなたはAちゃんのようにできないの」と叫びたくなることでしょう。

こういう相談に出会ったとき、専門家たちはご両親から子の日常の様子を聞くと同時に、子の遊びを時間をかけて観察していきます。その結果として、多くが親御さんの心配とは関係なく成長につれてお互いに追いつき追い越せで小学校入学頃までに心配が薄らいでいくものなのですが、先に述べたような特徴が顕著な子には母親一人だけの対応では十分でない場合もあります。是非専門機関に相談されるようお勧めします。

専門家の指導の他に家庭でもできることは沢山あります。

例えば言葉の遅れが気になるときについてお話ししましょう。アーウーと言っていた時期は二人一緒だったのに、一方の子は2歳過ぎになって模倣が多くなり、言葉の一部をそれらしく取り入れてお喋りができるようになったのに、もう一方の子はいつまでもアーウーしか喋らないということもあります。たとえお喋りが模倣であっても、母親や周囲の人に通じた時、母親と子の喜びは大きく、度重なりますと言葉を使う楽しさがわかってくるようです。

しかしあまりにもアーウーだけの状態が続きますと、親は心配そうな表情やイライラした態度でその子に接するようになりがちで、この親の態度は必ず子に伝わります。「アー、ウー」の中に隠された、伝えようとしている子の気持ちや言葉を、勘違いでもいいですから「この事を言おうと

しているのね」と思いながらその子と会話してください。必ずその子に伝わるものが残ります。子ども同士の遊びの場面を思い浮かべてみますと、喋るのがおぼつかない子に対しても、通じ合っている相手や仲間としてお喋りするのが大変上手です。ぜひ子ども同士の遊び方を見習ってください。

またこのような子の中で、カーペットの下に何か物を隠すように入れたり出したりする遊びが大好きな子もいます。専門家は2歳、3歳の子がこの遊びが目立って好きなことがわかると「遅れている」と言うかも知れません。しかしこの遊びは遊び方によっては年齢に関係なく楽しいものです。遅れを指摘された子の唯一の楽しい遊びがこれだとわかれば、大いに利用するのも発達に役立つ良い機会となります。もう一方の子と母親（もちろん父親も一緒にあればもっと楽しくなるでしょう）と一緒に、ゲーム感覚で順番を決めたり隠す物を変えたり工夫してみてください。皆で盛り上がったとき、喋らなかった子の口から思わず言葉が出ることがあります。二度と言わないでいると「なぜあの時だけ喋ったの」と不思議がる母親もいます。そんなものなのです。

順調な発達をしている子は自分から母親の表情を読みとり、誉められること、叱られることを、母親の反応を見ながら積極的に覚えていく力があります。そして次々と関心の輪を広げていくのです。

しかし外界の刺激の取り入れ方が偏っていたり弱かったりする子は、母との関係を十分に活かせず関心の輪も広がりにくいのです。繰り返し子の顔を見ながら言葉かけをし、叱るときも誉めるときも抱きしめながら、目と目を合わせるようにすると効果がでてきます。力のある子には母親は受け身的な対応でも大丈夫ですが、力の弱い子には母親の方から積極的に語りかけをするのです。そして双子ならば同時にそれぞれに対応するのがコツかもしれません。

親は専門家ではないのですから、多少の出来る、出来ないの差があっても気にせずに、「このままのあなたが、お母さんは大好きよ」という気持ちを子に伝えてください。

文 空井智子